

# 大正期における洋装子供服について

— 雑誌『主婦之友』より —

Studying Western-style-of-dress children's clothes in the Taisho era

— Magazine "Shufunotomo" —

村田裕子

Hiroko Murata

## 要旨

一般家庭での活動的な衣服の改良は明治後半から唱えられ、大正期には家庭生活の合理化や、欧米化に向けて「生活改善運動」の一環としての「服装改善運動」が行われることにより、衣服の洋装化が勧められた。衣服の洋装化の普及には、家庭において洋服を製作するという家庭洋裁が必要であった。当時の婦人雑誌では洋服の仕立方を掲載したり、型紙を販売するなどの活動を行っており、婦人雑誌が果たした役割が大きいと言える。そこで大正6年に発刊された実用的な家庭生活情報を中心に編集された『主婦之友』より、洋装化がはやく進んだ子供服について、主に製作面より検討することとした。型紙には、前後身頃、袖が繋がっている和服の要素を残した場合と、それぞれが独立しているような洋裁の技術が導入された場合とに大きな特徴がみられた。仕立方の記事には寸法の欠落や縫製方法の明確に指示がない場合などがあり、製作段階において試行錯誤を繰り返しながら衣服を仕上げていたと考える。

## キーワード

大正期、子供服、洋裁

## KEY WORDS

Taisho era, children's clothes, dressmaking

## I. はじめに

明治の初期、近代国家をめざす新政府は西欧文明にならぬ新服制を明治5年(1872年)に発布し、宮中祭服に公家正装を残すほかは明治政府の公服はすべて洋装とした。しかしこの新服制は男子のみを対象としたもので、洋式の婦人服制は明治19年(1886年)になってからであった。洋服はまだ宮中や上流階級など一部の特権階級の人々に限られた装いであった。

その後、明治後半から活動的な衣服への改良が唱えられはじめ、大正期には「生活改善運動」として家庭生活の合理化、欧米化が唱えられ、その一環として行われた「服装改善運動」により衣服の洋装化が勧められた。しかし既成の洋服は高価なものであり、仕立てに出すのもまた高価であった。経済的な面からも一般家庭へ洋装を普及させるためには、家庭において洋服を製作するという家庭洋裁が必要であり、これには洋服を作る為の知識が必要であった。

一般家庭への衣服の洋装化の普及には、洋服の作り方の掲載、既製服の通信販売、型紙販売、などの活動を行った婦人雑誌の果たした役割が大きい。そこで本研究では、実用的な家庭生活情報を中心に編集された大正6（1917）年発刊の『主婦之友』を対象とし、子供服について製作面より検討することとした。洋風化が侵入しても、封建的な要素の残っている婦人は衣服の洋装化には抵抗があり、長年親しんできた和服から洋服へ着替えるということに対して、なかなか受け入れることができなかった。しかしながら婦人達は洋服に関心を持っており、洋装化の時代が来ることを予想して、新しい時代を担う子供達には既に洋服を着せはじめていた。

婦人雑誌『主婦之友』の中で対象とした資料は大正期に「主婦之友代理部の家庭重宝品新聞」の中で販売され、さらに洋装記事として仕立方が掲載された下着を含む図1～8（販売品①～⑧）の9点の子供服である。

これらの子供服の記事に従って型紙を作成し、立体化し再現することによって、子供服の製作がどのようになっていたか、どのように家庭に受け入れられていたかを考察する。



図1 ①  
5巻7号より



図2 ②  
6巻1号より



図3 ③  
6巻9号より



図4 ④  
6巻9号より



図5 ⑤  
7巻2号より



図6 ⑥  
7巻8号より



図7 ⑦⑧  
8巻9号より



図8 ⑨  
8巻9号より

## II. 代理部の家庭重宝品新聞において販売された子供服

代理部の家庭重宝品新聞は現在でいう通信販売のようなものであり、2巻9号（大正7年9月）より『主婦之友』の巻末の誌面に掲載されていた（図9、図10）。販売品には「手芸材料」「衣類」「洗染用品」「美装用品」「化粧用品」「家庭用品」「売薬と滋養剤」などがあり、日常生活で身近に使用される品が販売されている。

子供服は表1に示すように『主婦之友』の記事において仕立方が約90回取り上げられている。手拭いや浴衣地、大人の古着を利用したものなどがあり、経済的に衣服を仕立てることができるように考案された方法も紹介されている。

仕立方が掲載されている子供服の中で「①和洋の長所を集めた新式の寝冷え知らず」「②和洋服兼用の女児下着の仕立方」「③軽快で衛生的な遊戯服の仕立方」「④子供の新形夏服の仕立方」「⑤防寒用の子供洋服下着の仕立方」「⑥経済で上品な少女ドレスの仕立方」「⑦⑧可愛らしい子供の遊戯着の仕立方」「⑨五六歳の男児用遊び着の作方」の9点の子供服は代理部の家庭重宝品新聞でも販売されている。

①～⑨の子供服が販売された期間や価格、広告文は表2に示す。記事掲載時のタイトルと販売品名が少し違っているがどれも同じ衣服である。これらの子供服は、記事で仕立方が掲載された後に代理部で販売されており、読者を通じて広がり普及されたと推察する。なかでも掲載期間が長い大正10年7月から昭和へと続いている①の「和洋の長所をとった子供の寝冷え知らず」や大正10年12月から同じく昭和へと続いている②の「和洋服兼用の女児下着」、大正12年2月から9月まで販売されていた⑤の「子供用防寒下着」の下着類は特に普及しており、③④の男児服についても人気があったと考えられる。



図9 2巻9号（大正7年9月）初回  
「主婦之友代理部の家庭重宝品新聞」



図10 6巻1号（大正11年1月）  
「主婦之友代理部の家庭重宝品新聞」

表1 「主婦之友」の記事において仕立方が掲載された子供服（大正期）

①～⑨は代理部で販売され、今回取り上げた子供服

養育年代	目	記事掲載タイトル	著者
01004	T6-6	手拭一本で子供の寒冷え知らずが出来る	せい子
01005	T6-7	愛らしくて経済的な子供服の仕立方	きよ子
01006	T6-8	寒冷え知らず兼用の愛らしい子供服の仕立方	清子
01007	T6-9	便利で経済的な子供運動服の作り方	清子
01008	T6-10	子供着を恰好よく仕立てる秘訣	加藤咲子
01008	T6-11	評判になった子供の着飾とエプロン	小坂い子
02001	T7-8	水着兼用となる寒冷え知らず（誰にも出来る簡単な作り方でありませ）	吉田壽代
03001	T8-1	用布が半分で出来る恰好のよい女児外套（素人にも容易に縫へる簡単な仕立法）	吉田壽代
03006	T8-6	二重程で出来るハイカラな女児洋服の作り方	吉田壽代
03009	T8-9	口絵にある五六歳用の男児服の作り方（夏から初秋にかけての簡単な子供洋服）	吉田壽代
04001	T9-1	防寒用の可愛らしい子供マントの縫方（七八歳の男児服とその前後のお子様向きのものです）	吉田壽代
04002	T9-2	手軽に出来る恰好のよいエプロンの縫方	吉田壽代
04005	T9-5	便利で可愛らしい子供の遊戯服（春先から夏にかけての子供の理想的洋服）	吉田壽代
04007	T9-7	手軽に縫へる可愛らしい男女海水浴着の仕立方（彩色口絵参照）	吉田壽代
04009	T9-9	新流行の女児用通学服の仕立方（第一着分の用布で出来る可愛らしい洋服です）	吉田壽代
04010	T9-10	十二三歳用女児流行服の仕立方（素人にも自由縫ふことのできる簡単なた仕立方）	吉田壽代
04012	T9-12	和洋兼用子供下着の仕立方（洗濯に便利で男児にも女児にも向く重宝な下着）	吉田壽代
05001	T10-1	七八歳の女児用新形外套の仕立方（素人にもできる可愛らしい外套の詳しい仕立方）	吉田壽代
05003	T10-3	簡単に縫へる恰好のよい女児通学服（初めに登校されるお嬢さん方のために御用意下さい）	吉田壽代
05005	T10-5	可愛らしいエプロンの作り方（洋服にも和服にも向く簡単に恰好のよい新型）	吉田壽代
05008	T10-8	初夏の暑所を兼ねた新式の寒冷え知らず（愛児の暑所予防のために御用意ください）	吉田壽代
05007	T10-7	手軽に縫へる夏向きの男児服（発育盛りの坊ちゃん方にはぜひ此の洋服を）	吉田壽代
05008	T10-9	遊び着によい軽快な女児服（此の記事を御覧になれば縫方にも難作なく出来ます）	吉田壽代
05010	T10-10	流行形女児合着洋服の仕立方（七八歳から十歳位までのお子様向きの流行服です）	吉田壽代
05011	T10-11	男児用合着洋服の作り方（簡単に出来る気の利いたハイカラな子供洋服）	吉田壽代
05011	T10-11	和洋兼用の女児下着の仕立方（特に通学中のお子さん方のために大さう便利な下着です）	杉山つね子
06001	T11-1	可愛らしい子供外套の仕立方	吉田壽代
06005	T11-4	可愛らしい帯つきエプロンの作り方（此のころは飾り無し車線なエプロンが流行です）	吉田壽代
06007	T11-5	軽快で衛生的な遊戯服の仕立方（これを縫うに縫針は縫方でも可重宝です）	福間やす子
06008	T11-6	新形の遊戯服の仕立方（これを縫うに縫針は縫方でも可重宝です）	吉田壽代
06010	T11-8	軽快で可愛らしい子供の遊び着（わづかの用布で出来て縫方にも手軽に縫へます）	吉田壽代
06011	T11-9	女児用の簡単な洋服の作り方（欧米で最新流行の子供遊戯着の作り方発表）	吉田壽代
07001	T12-1	防寒用の子供洋服下着の仕立方（子供の洋服は下着に注意すれば可です）	福岡やぶ子
07003	T12-3	大人物の古洋服を利用して子供洋服を作る新工夫	吉田壽代
07005	T12-5	新型の上品なエプロンの仕立方（幼穉時代と小学校時代のお子様方のために）	吉田壽代
07007	T12-7	経済で衛生的な少女ドレス仕立方（子供の晴着は地質より軽型の遊戯が一番）	高橋義代子
07007	T12-7	シャツとズボン兼用の男子用下着（洋服の下に着て着心地のよい新工夫のものです）	杉野房子
07008	T12-8	フランス刺繍入の子供夏洋服（上等の可愛い女児洋服の作り方を御紹介いたします）	西孝子
07009	T12-9	ワイシャツの既成で作った軽快な男児服（遊び遠のいたいものが買かへるやうな立派なものになります）	吉田壽代
08001	T13-1	既成で簡単に少女外套の作り方（この可愛らしい外套をお子様のために作りください）	高橋義代子
08004	T13-4	新型の子供合着服三種（紳装にあるやうな可愛らしいものです）	吉田壽代
08006	T13-6	可愛らしい少女服の仕立方（本号の三色版口絵を御参照のうへお作りください）	樹人記者

発号年代	月	記 録 掲 載 タ イ ト ル	著 者
08008	T13-8	可愛らしい子供の薄着の仕立方 (型は新玉の可愛らしいもので仕立ればよい)	吉田善代
08008	T13-8	五六歳の男児用遊び着の作り方 (着心地がよく便利で遊びやすいもの)	吉田善代
08009	T13-9	新スタイルの八九歳用女児服の作り方	吉田善代
08011	T13-11	洋服代用のエプロン三種 (和服の上これをつければ洋服を着たとしか見えませぬ) ○二三歳用の仕立方	吉田善代
08011	T13-11	洋服代用のエプロン三種 (和服の上これをつければ洋服を着たとしか見えませぬ) ○四五歳用の仕立方	吉田善代
08011	T13-11	洋服代用のエプロン三種 (和服の上これをつければ洋服を着たとしか見えませぬ) ○七八歳用の仕立方	吉田善代
09001	T14-1	男児用着用の新形のオーバーと帽子 (三色版口線とこの記事を参照してお作りください)	松田石子
09001	T14-1	(手縫で縫製) 女児用ケープと帽子の作り方 (口線の三色版にある要領が縫方にも載へます)	並木伊三郎
09002	T14-2	防塵用子供用下着 一切の仕立方 (和服のお子さんにもぜひこの下着を用意して戴きたい)	ケイ・ハンツ
09004	T14-4	(子供の運動) 便利で経済的な男児用オーバーオール (洗濯にらくですから悪戯盛の子供には持ってこいです)	福岡やすこ
09006	T14-6	流行後れのスカフとショールで仕立てた女児服 (どんな流行後れのものでも工夫一つで気の利いたものとなる)	婦人記者
09007	T14-7	可愛らしい男児用ロンパースの仕立方 (お子さんの夏のいたづら着に作ってお上げなさいませ)	並木伊三郎
09007	T14-7	一反の浴衣地で三枚の女児服を仕立て終結 (浴衣地でも工夫一つでこんなに気のきいた可愛い洋服が出来ます)	長谷川清子
09008	T14-8	主婦の友誌上夏期講習会○僅か五拾銭で出来る夏の男児服の仕立方 (夏の子供服は簡単に出来ても洗濯のきくものを)	長谷川清子
09008	T14-8	主婦の友誌上夏期講習会○僅か五拾銭で出来る夏の女児服 (何れにもある打紐で簡単に刺繍したものです)	並木伊三郎
09009	T14-9	新形の女児服外出着 一箱の作り方	長谷川清子
09009	T14-9	男児用ユニフォームの仕立方 (子供の夏ぶ運動着が家庭で簡単に手縫でできます)	皆川寛
09011	T14-11	可愛い可愛らしい七八歳女児冬服の仕立方 (今年の流行型で仕立の簡単なものを御紹介申します)	長谷川清子
09012	T14-12	新型の外出用男子服と帽子の仕立方 (お祝ひや正月着に是非これを用意ください)	並木伊三郎
10001	T15-1	平着と外出着兼用の上品な少女ドレスの作り方 (ジャケットとドレス一組の上品で経済的な洋服)	並木伊三郎
10002	T15-2	坊ちゃん嬢ちゃんの方の可愛らしいエプロン二種の仕立方 (縫方は簡単にしかも経済的なものであります)	平岩鏡子
10002	T15-2	お父様のお首の背広で出来た子供用のオーバーの仕立方 (写真で御覧のやうなものも縫方にも作られます)	大内重一
10002	T15-2	(洗裁ニュース) 縫にも出来る五六歳の女児服	並木伊三郎
10003	T15-3	理想的な女児用通学服の仕立方 (女児の通学服としてお勧めしたいもの)	並木伊三郎
10005	T15-5	可愛らしくて経済的な女児用オーバーオール (お悪戯さかりの女児の平着兼としてお奨め致します)	大内重一
10006	T15-6	屋さんポケットの夏向き女児服の仕立方 (二歳の可愛らしい女児服夏服の簡単な縫ひ方)	並木伊三郎
10007	T15-7	男女児兼用の便利な寒冷知らずの仕立方 (子供の寒冷知らずとして是非お勧めしたい理想的なもの)	婦人記者
10007	T15-7	女児兼用の可愛い可愛らしい新型女児服四種の仕立方 (『主婦の友』懸賞浴衣地懸賞会で好評を得た女児服です) ○五尺三寸で三・四歳用	長谷川清子
10007	T15-7	女児兼用の可愛い可愛らしい新型女児服四種の仕立方 (『主婦の友』懸賞浴衣地懸賞会で好評を得た女児服です) ○七尺一寸二分で七・八歳用	長谷川清子
10007	T15-7	安価で軽快な男児用夏洋服と帽子一箱の仕立方 (男児の夏の服装として最も理想的なもの)	三上勇
10007	T15-7	『主婦の友』浴衣地で可愛らしい新型女児服四種の仕立方 (『主婦の友』懸賞浴衣地懸賞会で好評を得た女児服です) ○八尺七寸で五・六歳用	長谷川清子
10007	T15-7	『主婦の友』浴衣地で可愛らしい新型女児服四種の仕立方 (『主婦の友』懸賞浴衣地懸賞会で好評を得た女児服です) ○八尺八寸で九・十歳用	長谷川清子
10008	T15-8	主婦の友浴衣地を使った可愛い可愛らしい遊戯四種の仕立方 (遊戯さかりの夏の遊着にはこのロンパースが最も便利です) ○ロンパース三歳用	長谷川清子
10008	T15-8	主婦の友浴衣地を使った可愛い可愛らしい遊戯四種の仕立方 (遊戯さかりの夏の遊着にはこのロンパースが最も便利です) ○ロンパース三歳用	長谷川清子
10008	T15-8	主婦の友浴衣地を使った可愛い可愛らしい遊戯四種の仕立方 (遊戯さかりの夏の遊着にはこのロンパースが最も便利です) ○ロンパース六歳用	長谷川清子
10008	T15-8	主婦の友浴衣地を使った可愛い可愛らしい遊戯四種の仕立方 (遊戯さかりの夏の遊着にはこのロンパースが最も便利です) ○ロンパース六歳用	長谷川清子
10008	T15-8	短く手軽に出来る女児用外出着の作り方 (口懸草履のやうな流行スタイルの外出着が家庭で出来ます)	長谷川清子
10008	T15-8	主婦の友浴衣地を使った可愛い可愛らしい遊戯四種の仕立方 (遊戯さかりの夏の遊着にはこのロンパースが最も便利です) ○ロンパース五・六歳用	長谷川清子
10008	T15-8	主婦の友浴衣地を使った可愛い可愛らしい遊戯四種の仕立方 (遊戯さかりの夏の遊着にはこのロンパースが最も便利です) ○ロンパース五・六歳用	長谷川清子
10009	T15-9	着心地のよいモスリンを用いた女児用合着洋服の仕立方 (七・八歳用)	足立喜久子
10009	T15-9	着心地のよいモスリンを用いた女児用合着洋服の仕立方 (七・八歳用)	足立喜久子
10009	T15-9	着心地のよいモスリンを用いた女児用合着洋服の仕立方 (十一・二歳用)	足立喜久子
10009	T15-9	着心地のよいモスリンを用いた女児用合着洋服の仕立方 (十一・二歳用)	足立喜久子
10009	T15-9	着心地のよいモスリンを用いた女児用合着洋服の仕立方 (十五・六歳用)	足立喜久子
10009	T15-9	着心地のよいモスリンを用いた女児用合着洋服の仕立方 (十五・六歳用)	足立喜久子
10010	T15-10	一つ身一枚分の通学服に相応しい十三四歳用女児セーラーの仕立方 (東京市の小学生用通学服として最も奨励されている標準服)	大内重一
10010	T15-10	(講習会洋裁科) 七八歳女児用ワンピースドレスの仕立方	並木伊三郎
10011	T15-11	秋から冬向の通学服に可愛らしい水兵服の仕立方 (外出着にも通学服にもふさわしい水兵服の本式の仕立方)	足立喜久子・アレキサンダー
10011	T15-11	七七歳用男児の可愛らしい新築女児オーバーの仕立方 (竹カフスにも毛糸を上手に代用して毛糸を上手に代用したもの)	三上勇
10012	T15-12	最も簡単に縫へて暖かい新築女児オーバーの仕立方	酒川熊吉

⑦⑧  
⑨



### Ⅲ. 子供服の洋装化に関して

子供服の洋装化に関しては、新装普及会 福岡ヤス子氏が大正11年2月15日号（6巻4号）「子供洋服に就いて知らねばならぬ知識—洋服の知識があれば恰好のよい物を安く拵へられます—」の中において「洋服を宣伝するに先立ち、お母さん方に洋服の知識をもっていたきたい。いづれ洋服の時代になるが、今の婦人に洋服というのは難しいが、子供は洋服時代でなければなりません。」と洋装化を勧めている。彼女はまた大正12年9月1日に起きた関東大震災の後、実用的な洋服を推奨し、新都市計画が欧風によるならば近代都市東京には洋装化が必要であると説いている。

この他にも子供のうちから洋服に慣れさせておくこと、洋服を着ると活発に活動ができること、体育向上との関連からも子供の洋装を勧める意見がだされている。

### Ⅳ. 製作面において

さて、この①～⑨の9点の子供服が実際にどのような構成をしていたのかを知るため、掲載されている仕立方図（図11～18）と記事をもとに型紙を作成し、布にて裁断、縫製を行い再現した（写真1～9）。当時製作するにあたって用意するように記載されていた布地と附属品については表3に示す。

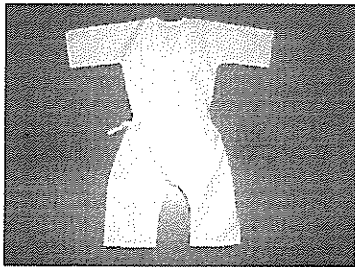


写真1 ①

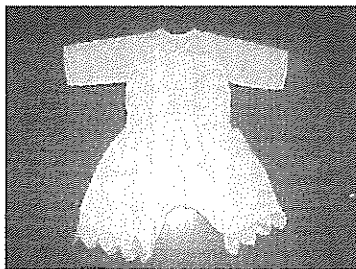


写真2 ②

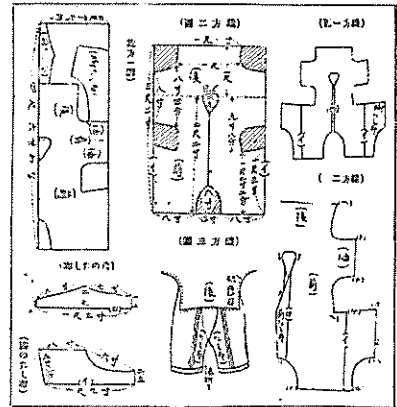


図11 5巻6号より ①

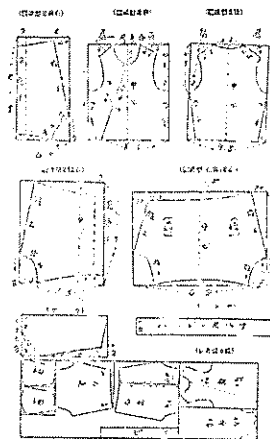


図12 5巻11号より ②

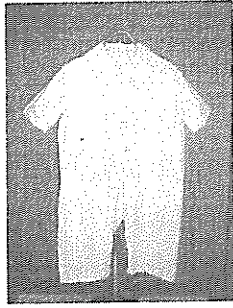


写真3 ③

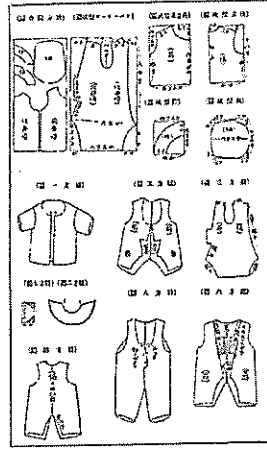


図13 6巻7号より ③

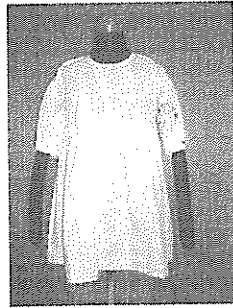


写真4 ④

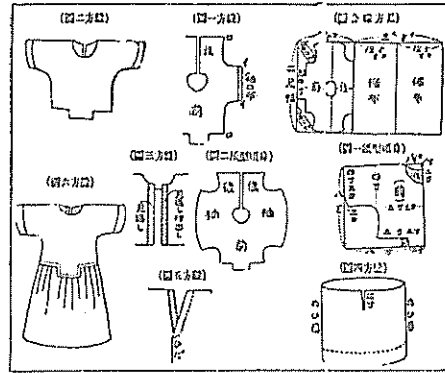


図13 6巻8号より ④

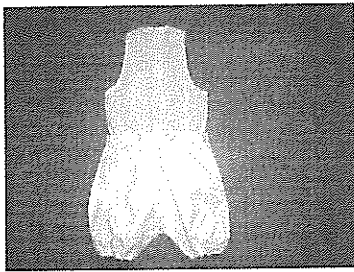


写真5 ⑤

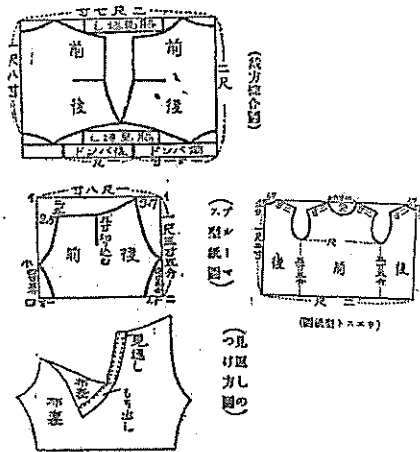


図14 7巻1号より ⑤



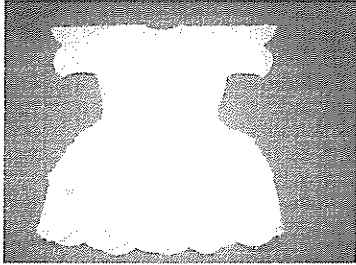


写真6 ⑥

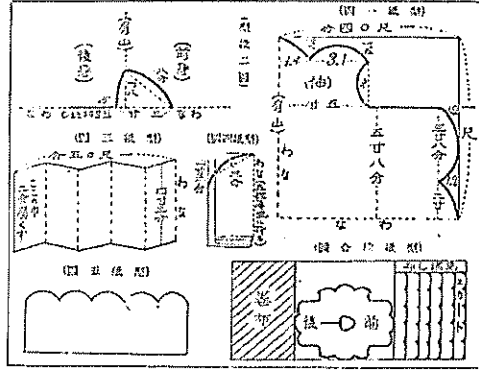


図15 7巻7号より ⑥

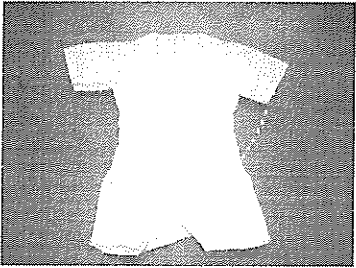


写真7 ⑦

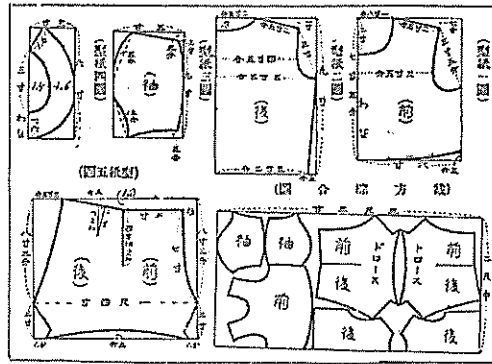


図16 8巻8号より ⑦

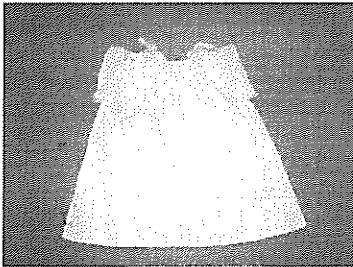


写真8 ⑧

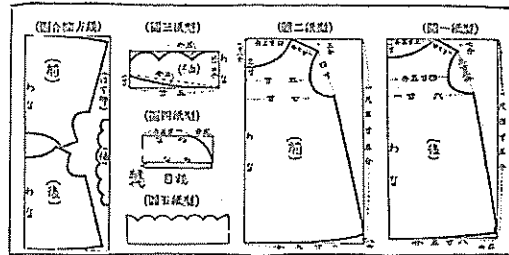


図17 8巻8号より ⑧

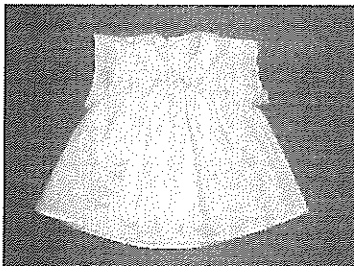


写真9 ⑨

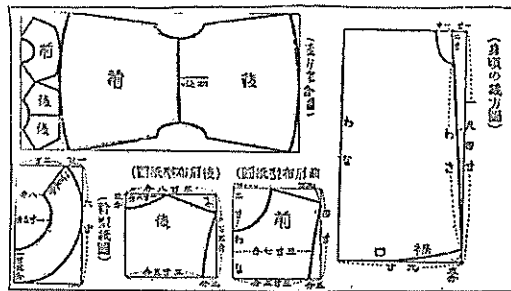


図18 8巻8号より ⑨

表3 用布と附属品（仕立方の説明より）

	用布	素材	附属品
①	7,8歳用 大巾 4尺6寸(174.2cm)	暑い時：天竺木綿、キャラコ 秋から春：ネル	
②	7,8歳用 大巾 3尺8寸(143.9cm)	ネル	飾りレース ホック
③	5,6歳用 ウエスト：大巾 1尺5寸5分(58.7cm) オーバーオール：羅紗巾 1尺4寸(53.0cm)	ウエスト：白の綾モス と オーバーオール：紺か黒のサージ、 ウエスト：無地のゼツパ と オーバーオール：縞ゼツパ	飾り貝ボタン ホック
④	7,8歳用 2尺巾 3尺9寸5分(149.6cm)	絹紬 ギンガム、ゼツパ	飾りボタン ホック
⑤	6,7歳用： ブルーマス：大巾 2尺7寸(102.3cm) ウエスト：2尺巾 1尺2寸(45.5cm)	夏：キャラコ、メリンス 冬：ネル、羅紗、黒の毛織子	裾口ゴムテープ ボタン ホック
⑥	13,14歳用 長さ6尺5寸(246.2cm)	オーガンジー	リボン ホック
⑦	4,5歳用 2尺巾 3尺(113.6cm)	キャラコ	リボン
⑧	6,7歳用 地布：2尺巾 3尺2寸(121.2cm) 衿と袖の別布：1尺巾 2尺(75.8cm)	ポイル ギンガム 衿と袖は地布と取合せのよい 別布	ホック
⑨	5,6歳用 地布：2尺巾 3尺3寸(125.0cm) 飾布：2尺巾 6寸(22.7cm)	遠州木綿 ギンガム 飾布に白のキャラコ	ボタン ホック

再現した結果、まず布地を裁断するには、現在では当然のこととして捉えられているが、型紙を作成する必要がある。型紙を作成することは、当時着用されていた和服ではコートの衿を裁断するなど限られた場合だけであった。型紙は身近にある新聞紙を使用して作成するように指示されていることが多い。

型紙の作り方については、和洋裁縫女学校洋服科教師の吉田壽代氏が大正8年6月（3巻6号）「2円で出来るハイカラな女兒洋服の拵え方」のなかで「洋服とは着る人の寸法を計り、その寸法にあわせて原型を作り、原型から割り出して用布を裁断していくものですが、これだと原型の作方から習わなければならない、大変長くなってしまいます。ということで、素人でも直ぐに裁断できるように標準寸法で裁つということにしています。」と述べているように、着用者の寸法からの割り出しによる原型の作成方法はまだ一般には難しいとされており、簡単に裁断の出来る方法として標準寸法が記され、寸法に従って型紙を作成していた。

型紙の特徴としては①「寝冷え知らず」、④「女兒用の夏用服」、⑥「少女ドレス」のように前身頃も後身頃も袖も一つに繋がった直線的な和服の要素を引継いだ場合と、②「和洋服兼用の女兒下着」、③「男児の遊戯服」、⑤「子供防寒用下着」、⑦⑧「女兒用の夏遊戯服」、⑨「男児用の夏の遊び着」のように前後の身頃と袖がそれぞれ独立し、傾斜のある洋服の要素が入ってきている場合とに大別される。

縫代は、取り上げた①～⑨では、型紙内に含まれている。ただし他の製作方法の記事には縫代を型紙の外にとる場合もある。

縫製段階に入っていくと次のようなことが認められた。

- ・ 衿や袖と身頃を縫い合わせる際に縫い合せ箇所寸法の違いが起こる。これは、衿や袖が身頃からの割り出しではなく、記事に指示された寸法で型紙を作成することにより誤差が生じるため、寸法記載の不正確さが指摘できる。縫い合わせるためにはギャザーやタックという技術で処理をして長さを合わせて縫製していたと考えられる。

- ・ 身頃、袖が繋がっているキモノスリーブ型の服では、縫代の始末に袋縫いの指示があるが、実際に行うとひきつれがおこる。この形は着装すると皺が多くできてしまう。

- ・ ズボン型の服の場合、当時は腹部をゴムで締付けるのは衛生上よくないとされていたため、胴部と身頃とを縫合せた帯や紐で締めたり、ボタンで胴部とズボンが取り外せるようにしている。

- ・ 当時はジッパー（ファスナー）がまだ普及していなかったため、明きの部分はホック（スナップ）やボタンを使用している。

- ・ 縫代端の始末には、見返しや斜布が使用されており、曲線裁ちの洋服に合わせた縫製方法である。

## V. おわりに

大正期の子供服の仕立方の記事には寸法が欠落していたり、縫製方法が明確に記載されていないものもあり、型紙を作成する際や縫製していく段階において製作者は試行錯誤を繰り返して、独自の裁縫知識によって衣服を仕立てていたことが伺える。

婦人雑誌の誌上において仕立方を掲載したことは、洋服自体の形や製作するための説明が十分でなかったとはいえ、専門家ほどの技術がなくても簡単な寸法入りの型紙を使用することで、裁断が容易となり、一般家庭において洋服を製作することを可能とした。そして洋裁の知識や技術を普及させ、洋装化を勧める一役を果たしたのである。

## 謝辞

本稿の執筆にあたり、貴重な資料をお貸しくださったケンショク「食」資料室に感謝申し上げます。

## 参考・引用文献

- 1) 『主婦之友』 東京家政研究会 主婦之友社 大正6年3月号(1巻1号)～大正15年12月号(10巻12月号)
- 2) 『日本婦人洋装史』 中山千代 吉川弘文館 1987年3月
- 3) 『日本洋服史 一世紀の歩みと未来展望』 洋服業界記者クラブ「日本洋服史刊行委員会」 1977年1月
- 4) 「明治時代後期の子供服についての一考察」 城戸綾子 山脇学園短期大学紀要第23号 1985年
- 5) 「大正期の服装改善運動と裁縫教育内容の変遷」 夫馬佳代子・松田純子 生活文化史 31号 日本生活文化史学会 1997年